

従属節の従属度 「主節に対する従属または依存の度合い」	
従属節が文法的に多くの制約を持っている場合は「従属度が高い」 = 「自由度が低い」 従属節が文法的な制約があまりない場合は「従属度が低い」 = 「自由度が高い」という 従属度が高いもの、中程度の従属度、低い従属度、極めて低い従属度の4つに分けられる	
【1】 従属度が高い従属節。 = 「文ならば当然持っている要素を欠いていて、欠いた要素に関して主節に依存している従属節」	
付帯状況「ながら」	従属度が高い従属節 = 【を】のみが表出できる。 テレビを見ながら、ご飯を食べる。 テレビを見ながら、ご飯を食べ ます 。従属度が高いので「デスマス体」が従属節に及ぶ。 ×ながら節に独自の主語が無い。 *彼がテレビを見ながら、私がお飯を食べる。(非文) 主節と従属節の「デスマス体」が違って良い。 ×ながら節にテンス(現在/過去)が無い。 *テレビを見るながら、ご飯を食べる。(非文) *テレビを見たながら、ご飯を食べる。(非文) ×ながら節にモダリティ表現は接続しない。 *テレビを見るようだながら、ご飯を食べる(非文) ○ながら節に格助詞「を」は存在できる。
【2】 中程度の従属節 = 「単文が持っている要素のいくつかは現れ、いくつかは主節に依存している従属節」	
条件を表す「なら」	従属度が中程度の従属節 = 【を】 【が】 【テンス】 が表出できる 君が行く なら 、僕は行きます。 ○なら節は、主節と異なる独自の主語がある。「君 が 行く なら 、僕 は 行きます。」 従属度が高いので主節と従属節の「デスマス体」違って良 ○なら節は、否定接続可能。「君が行か ない なら、僕は行きます」 ○なら節は、テンス(現在/過去)がある。「君が行 った なら、僕も行こう。」 ○なら節は、モダリティ(「ようだ」)接続可能。「君が行く よう なら、僕は行きます」 ×なら節は、モダリティ(「だろう」)接続不可。*「君が行く だろう なら、僕は行きます」(非文) ×なら節は、丁寧形に接続不可。 *「君が行 きます なら、僕は行きます。」 *「君が行く でしょう なら、僕は行きます」
目的を表す「ため」	中程度の従属節となる。 従属度が中程度の従属節 = 【を】 【が】 【テンス】 が表出できる 「試験 を 受ける ため 、一生懸命勉強をする」 「疲れ が あ った ため 、勉強を中止した。」
理由を表す「ため」	中程度の従属節となる。 従属度が中程度の従属節 = 【を】 【が】 【テンス】 が表出できる 「子供 が 熱 を 出した ため 、仕事を休んだ」 「ため」節は用法が違ってても、従属度の度合いは変化しない。
確定条件の「たら」	中程度の従属節となる。 従属度が中程度の従属節 = 【を】 【が】 【テンス】 が表出できる 「時計の針 が 4時を指したら、出発しよう」

【3】従属度の低い従属節 = 「主節とは独立した要素を持つことができる従属節」						
理由を表す「から」	<p>従属度が低い従属節 = 【を】 【が】 【テンス】 【は】 【だろう】 が表出できる</p> <p>明日は雨だから、試合は行いません。</p> <p>○から節は、主節と異なる独自の主語がある。「明日は雨だから、試合は行いません。」</p> <p>○から節は、主題もある。「明日は雨だから、試合は行いません。」</p> <p>○から節は、否定接続可能。「明日は雨じゃないから、傘はいりません」</p> <p>○から節は、モダリティ（「ようだ」）接続可能。「明日は雨のようだから、試合は行いません。」</p> <p>○から節は、モダリティ（「だろう」）接続可能。「明日は雨だろうから、試合は行いません。」</p> <p>○から節は、丁寧形接続可能。「明日は雨ですから、試合は行いません。」 「明日は雨でしょうから、試合は行いません。」</p> <p>×から節は、終助詞接続は不可 * 「明日は雨が降るねから、試合は行いません。」（非文）</p> <p>×から節は、命令形は接続不可 * 「明日は雨が降れから、試合は行いません。」（非文）</p>					
理由を表す「から」	<p>従属度が低い従属節となる。 従属度が低い従属節 = 【を】 【が】 【テンス】 【は】 【だろう】 が表出できる</p> <p>「明日は、彼がビールを持って来るだろうから、私はジュースを用意しよう。」 【を】 【が】 【テンス】 【は】 【だろう】 が表出</p> <p>「彼は、傘を忘れただろうから、持って行ってあげよう」</p>					
理由を表さない「から」	<p>中程度の従属節となる。 従属度が中程度の従属節 = 【を】 【が】 【テンス】 が表出できる</p> <p>「私がタクシーを呼ぶから、すぐ病院に行きなさい」 【を】 【が】 【テンス】 だけが表出。【は】 【だろう】 は使えない。</p> <p>同じ「から節」でも用法によって文法の従属度が異なるので注意が必要。</p>					
理由を表す「て」	<p>中程度の従属節となる。 従属度が中程度の従属節 = 【を】 【が】 【テンス】 が表出できる。</p> <p>「子供が風邪をひいて、仕事に行けなかった。」 【は】 【だろう】 は使えない</p>					
【4】従属節が極めて低い従属節 = 「様々な文法的要素を持つことができる従属節」 ■ 思考の内容を表す「と」は「従属節の従属度が高い」ので普通体になります。						
直接引用を表す「と」	<p>従属度が極めて低い従属節 = 【を】 【が】 【テンス】 【は】 【だろう】 【終助詞】 が表出できる</p> <p>「私は彼がふさわしいと思うよ」と彼が言った。 間接引用 ■ *私は無理だと思います。丁寧体不可 ○ 私は無理だと思います。普通体になる</p>					
逆接の「が」	<p>従属度が低く、自由度が高い。主節の丁寧度が従属節まで及ばないので、従属節の丁寧度を合わせる必要がある。</p> <p>「雪が降っていますが、寒くないです。」 → 従属度が高い「君が行くなら、私も行きます。」 従属度が高い従属節では普通体になる。</p>					
従属度の指標	を	が	テンス	は	だろう	終助詞
	「ながら節」	「なら節」「ため節」		「から節」		直接引用の「と」
	従属度が高い	従属度が中程度		従属度が低い		従属度極めて低い

従属度と丁寧形		従属節の従属度が高い場合は普通体になる	平成27年度試験1問題3D
並列を表す「し」	丁寧体○ 普通体○	彼女は綺麗ですし、美しいですし、好きです。 彼女は綺麗だし、美しいし、好きです。	
逆接を表す「けれども」	丁寧体○ 普通体○	具合が悪いですけれども、行きます。 具合が悪いけれども、行きます。	
思考を表す「と」	丁寧体× 普通体○	*私は無理だと思います。(非文) 私は無理だと思います。	: 思考内容の前は丁寧体は使えない。[普通体]と思う/[普通体]と考える ※引用の「と」は従属度が低い、自由度が高い助詞だが、思考規則が優先される。
原因理由を表す「ので」	丁寧体○ 普通体○	用事がありますので、失礼します。 用事があるので、失礼します。	